

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成25年1月15日
【四半期会計期間】	第45期第3四半期（自平成24年9月1日至平成24年11月30日）
【会社名】	株式会社柿安本店
【英訳名】	Kakiyasu Honten Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 赤塚 保正
【本店の所在の場所】	三重県桑名市吉之丸8番地
【電話番号】	(0594)23-5500(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 赤塚 義弘
【最寄りの連絡場所】	三重県桑名市吉之丸8番地
【電話番号】	(0594)23-5500(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 赤塚 義弘
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第44期 第3四半期連結 累計期間	第45期 第3四半期連結 累計期間	第44期
会計期間	自平成23年 3月1日 至平成23年 11月30日	自平成24年 3月1日 至平成24年 11月30日	自平成23年 3月1日 至平成24年 2月29日
売上高(千円)	30,179,099	30,984,146	41,983,794
経常利益(千円)	1,536,950	1,718,856	2,549,680
四半期(当期)純利益(千円)	597,338	825,589	996,878
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	581,475	819,599	992,753
純資産額(千円)	11,835,539	12,630,739	12,246,791
総資産額(千円)	17,760,357	18,337,726	17,831,292
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	47.99	66.33	80.09
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	66.6	68.9	68.7

回次	第44期 第3四半期連結 会計期間	第45期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成23年 9月1日 至平成23年 11月30日	自平成24年 9月1日 至平成24年 11月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	20.76	17.66

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第44期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

## 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクに重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において、当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要により、緩やかな回復傾向にあるものの、欧州の債務危機による海外景気の減速や長引く円高等の影響により先行き不透明な状況が続いております。

食関連業界におきましても、雇用状況の厳しさに加え、将来の消費税増税や電気料金の値上げへの生活防衛意識の高まりにより、引き続き厳しい経営環境が続きました。

このような環境の中、当社グループは、「三重県フェア（平成24年9月19日～平成24年10月16日）」、「創業感謝祭（平成24年11月1日～平成24年11月30日）」の大型企画に加え、「柿安の日（毎月8日）」「肉の日（毎月9日・19日・29日）」などの限定日企画や歳時企画を開催するとともに、これらと連動した商品開発投入を行い、魅力向上に努めてまいりました。

出退店につきましては、和菓子事業において「口福堂」を出店する一方で百貨店内の「柿次郎」を閉鎖するなど、積極的なスクラップ&ビルド等を推進した結果、出店19店、閉鎖20店となりました。また、併せて11店の改装・移転新装による既存の店舗活性化を図りました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は30,984,146千円(前年同期比2.7%増)、営業利益は1,703,079千円(同11.2%増)、経常利益は1,718,856千円(同11.8%増)、四半期純利益は825,589千円(同38.2%増)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### (a) 精肉事業

創業感謝祭や年に1度の「いい肉の日（11月29日）」において、松阪牛の特別商品の提供、「黒毛和牛小間切れ」の試食販売を行うとともに、部位による味の違いも楽しむことのできる「食べ比べセット」の展開やローストビーフの拡販に努めました。

この結果、当事業の売上高は10,434,258千円(前年同期比2.7%増)、セグメント利益は729,307千円(同1.4%増)となりました。

#### (b) 惣菜事業

集客企画の多様化に合わせ、「柿安の日（毎月8日）」限定の「キャベツたっぷり美食メンチカツ」や「イベリコ豚入りメンチカツ」などの揚げ物類の商品開発とともに、定番の「牛めし弁当」のブラッシュアップ、三重県フェアにおいて高校生レストランで知られた三重県立相可高等学校とのコラボ弁当「孫心（まごころ）幕の内弁当」の投入など、弁当類の強化を進めてまいりました。

この結果、当事業の売上高は9,357,523千円(前年同期比4.3%増)、セグメント利益は1,095,452千円(同10.3%増)となりました。

(c) 食品事業

三重県フェアに合わせ「炊きたて松阪牛しぐれ煮」を投入するなど、炊きたてしぐれ煮シリーズによる自家需要向け商品の拡充をさらに進めました。また、年間最大の販売機会である歳暮ギフト商戦へ牛肉しぐれ煮ギフトの他に、産地直送精肉ギフトや惣菜ギフトによる拡販を図りました。

この結果、当事業の売上高は2,625,530千円(前年同期比0.3%増)、セグメント利益は304,480千円(同8.1%減)となりました。

(d) 和菓子事業

おはぎ半額セールによる定期的な顧客づくりを継続するとともに、「柿おはぎ」「柿大福」など、季節ごとの食材を使用した新商品の開発投入、陳列や店頭演出の向上を図ってまいりました。

この結果、当事業の売上高は3,205,027千円(前年同期比6.4%増)、セグメント利益は140,033千円(同6.2%減)となりました。

(e) レストラン事業

三重県フェア、創業感謝祭における期間限定メニューの提供に加え、「柿安の日(毎月8日)」「肉の日(毎月9日・19日・29日)」や「ハンバーグの日(毎月10日・20日・30日)」の当日限定グレードアップメニュー、お値打ち増量企画などの常に変化を打ち出し集客に努めました。

この結果、当事業の売上高は5,313,974千円(前年同期比2.0%減)、セグメント利益は306,062千円(同35.2%増)となりました。

(f) その他

柿安グループの店舗を設けていない百貨店・量販店等において、柿安総合催事を実施いたしました。

この結果、その他の売上高は47,832千円、セグメント損失は474千円となりました。

(2) 財政状態に関する分析

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ506,433千円増加し、18,337,726千円となりました。主な要因は、現金及び預金787,681千円の減少がありましたが、売掛金703,772千円及び仕掛品319,270千円並びに新規出店等に伴う建物及び構築物162,128千円の増加によるものであります。

負債合計は前連結会計年度末に比べ122,485千円増加し、5,706,986千円となりました。主な要因は、未払法人税等477,571千円、借入金の返済に伴う長期借入金152,500千円の減少がありましたが、買掛金396,268千円及び未払金250,963千円並びに賞与引当金184,993千円の増加によるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ383,947千円増加し、12,630,739千円となりました。主な要因は、利益剰余金389,966千円の増加によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更等はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第3四半期連結累計期間において、経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通しに重要な変更等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	46,300,800
計	46,300,800

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年11月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年1月15日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	12,446,700	12,446,700	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	12,446,700	12,446,700	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成24年9月1日～ 平成24年11月30日	-	12,446,700	-	1,269,238	-	1,074,763

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年8月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年11月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 300	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 12,444,600	124,446	-
単元未満株式	普通株式 1,800	-	-
発行済株式総数	12,446,700	-	-
総株主の議決権	-	124,446	-

(注) 1. 「完全議決権株式（その他）」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が300株（議決権の数3個）含まれております。

2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社の保有の自己株式61株が含まれております。

【自己株式等】

平成24年11月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
株式会社柿安本店	三重県桑名市吉之丸8番地	300	-	300	0.0
計	-	300	-	300	0.0

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は次の通りであります。

役職の異動

新役職名	旧役職名	氏名	異動年月日
専務取締役	専務取締役管理本部長	赤塚 義弘	平成24年9月1日
取締役管理本部長 兼 リスク管理委員会委員長	取締役管理副本部長 兼 リスク管理委員会委員長	紺戸 淳	平成24年9月1日



## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成24年9月1日から平成24年11月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年3月1日から平成24年11月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、東陽監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,410,305	5,622,624
受取手形及び売掛金	2,612,782	3,316,554
商品及び製品	222,439	291,741
仕掛品	106,204	425,475
原材料及び貯蔵品	138,953	202,926
繰延税金資産	250,046	343,978
その他	57,105	49,269
貸倒引当金	25,576	30,075
流動資産合計	9,772,261	10,222,495
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,163,138	3,325,267
土地	2,282,565	2,282,565
その他(純額)	730,962	669,748
有形固定資産合計	6,176,666	6,277,580
無形固定資産		
その他	142,071	124,862
無形固定資産合計	142,071	124,862
投資その他の資産		
投資有価証券	164,689	157,524
繰延税金資産	424,054	370,354
差入保証金	928,935	947,568
その他	222,613	237,340
投資その他の資産合計	1,740,293	1,712,787
固定資産合計	8,059,031	8,115,231
資産合計	17,831,292	18,337,726
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,202,123	1,598,392
未払金	316,394	567,357
未払法人税等	724,012	246,440
未払費用	886,434	961,720
賞与引当金	354,719	539,713
役員賞与引当金	33,000	24,750
その他	570,795	440,212
流動負債合計	4,087,479	4,378,586
固定負債		
長期借入金	897,500	745,000

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年11月30日)
退職給付引当金	3,222	7,701
役員退職慰労引当金	95,806	-
資産除去債務	491,931	476,993
その他	8,561	98,704
固定負債合計	1,497,021	1,328,400
負債合計	5,584,500	5,706,986
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,269,238	1,269,238
資本剰余金	1,074,763	1,074,763
利益剰余金	9,919,504	10,309,470
自己株式	372	401
株主資本合計	12,263,133	12,653,070
その他の包括利益累計額		
其他有価証券評価差額金	16,341	22,331
その他の包括利益累計額合計	16,341	22,331
純資産合計	12,246,791	12,630,739
負債純資産合計	17,831,292	18,337,726

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)
売上高	30,179,099	30,984,146
売上原価	16,527,783	16,743,223
売上総利益	13,651,316	14,240,922
販売費及び一般管理費	12,119,857	12,537,842
営業利益	1,531,458	1,703,079
営業外収益		
受取利息	2,692	3,024
受取配当金	1,489	1,631
協賛金収入	7,587	2,778
その他	17,388	25,657
営業外収益合計	29,158	33,091
営業外費用		
支払利息	16,488	11,553
その他	7,177	5,761
営業外費用合計	23,666	17,314
経常利益	1,536,950	1,718,856
特別利益		
固定資産売却益	186	-
資産除去債務履行差額	12,172	-
特別利益合計	12,359	-
特別損失		
固定資産除売却損	67,454	25,856
減損損失	39,883	48,244
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	276,357	-
店舗閉鎖損失	10,360	101,818
その他	8,167	3,078
特別損失合計	402,224	178,998
税金等調整前四半期純利益	1,147,085	1,539,858
法人税、住民税及び事業税	699,550	751,236
法人税等調整額	149,803	36,967
法人税等合計	549,746	714,268
少数株主損益調整前四半期純利益	597,338	825,589
四半期純利益	597,338	825,589

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	597,338	825,589
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	15,862	5,990
その他の包括利益合計	15,862	5,990
四半期包括利益	581,475	819,599
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	581,475	819,599
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間  
(自平成24年3月1日  
至平成24年11月30日)

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

(役員退職慰労引当金)

当社は、平成24年4月13日開催の取締役会において、役員退職慰労金制度を平成24年5月18日をもって廃止することを決議いたしました。また、平成24年5月18日開催の定時株主総会において、本制度廃止日までの在任期間に対応する退職慰労金を打ち切り支給することとし、その支給の時期は、各役員の退任時とすることを決議いたしました。

これに伴い、本制度廃止日までの期間に対応する役員退職慰労引当金98,420千円を流動負債の「未払金」(4,250千円)及び固定負債の「その他」(94,170千円)へ振り替えております。

(表示方法の変更)

前第3四半期連結累計期間において、特別損失の「その他」に含めて表示しておりました「店舗閉鎖損失」は、金額的重要性が増したため、当第3四半期連結累計期間では区分掲記することといたしました。この表示方法の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書において、特別損失の「その他」に表示しておりました18,528千円は、「店舗閉鎖損失」10,360千円、「その他」8,167千円として組み替えております。

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)
減価償却費	498,532千円	475,276千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成23年3月1日至平成23年11月30日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年5月27日 定時株主総会	普通株式	348,498	28	平成23年2月28日	平成23年5月30日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成24年3月1日至平成24年11月30日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月18日 定時株主総会	普通株式	435,622	35	平成24年2月29日	平成24年5月21日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年3月1日至平成23年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	精肉事業	惣菜事業	食品事業	和菓子 事業	レストラン 事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	10,157,315	8,968,577	2,617,196	3,012,449	5,423,560	30,179,099	-	30,179,099
セグメント間の内部 売上高又は振替高	983,705	18,354	250,849	83,558	16,953	1,353,422	1,353,422	-
計	11,141,021	8,986,932	2,868,046	3,096,008	5,440,514	31,532,522	1,353,422	30,179,099
セグメント利益	719,358	993,492	331,309	149,257	226,403	2,419,820	888,361	1,531,458

(注)1.セグメント利益の調整額 888,361千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 911,186千円及びその他調整額22,824千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2.セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「食品事業」、「和菓子事業」及び「レストラン事業」セグメントにおいて、店舗設備の減損損失をそれぞれ248千円、9,306千円、30,328千円計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において、39,883千円であります。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年3月1日至平成24年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	食品事業	和菓子 事業	レストラン 事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	10,434,258	9,357,523	2,625,530	3,205,027	5,313,974	30,936,314	47,832	30,984,146	-	30,984,146
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	1,138,118	14,887	250,233	88,109	16,005	1,507,354	-	1,507,354	1,507,354	-
計	11,572,376	9,372,410	2,875,764	3,293,137	5,329,980	32,443,668	47,832	32,491,501	1,507,354	30,984,146
セグメント利益 又は損失( )	729,307	1,095,452	304,480	140,033	306,062	2,575,336	474	2,574,862	871,782	1,703,079

(注)1.「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等であります。

2.セグメント利益又は損失( )の調整額 871,782千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 906,336千円及びその他調整額34,553千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3.セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。



2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「精肉事業」、「惣菜事業」、「和菓子事業」及び「レストラン事業」において、店舗設備の減損損失をそれぞれ739千円、5,003千円、17,427千円、25,074千円計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において、48,244千円であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)
1株当たり四半期純利益金額	47円99銭	66円33銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	597,338	825,589
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	597,338	825,589
普通株式の期中平均株式数(千株)	12,446	12,446

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年1月7日

株式会社柿安本店  
取締役会 御中

### 東陽監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 谷本 勝則 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 高津 清英 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社柿安本店の平成24年3月1日から平成25年2月28日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年9月1日から平成24年11月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年3月1日から平成24年11月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社柿安本店及び連結子会社の平成24年11月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲には、XBRLデータ自体は含まれておりません。